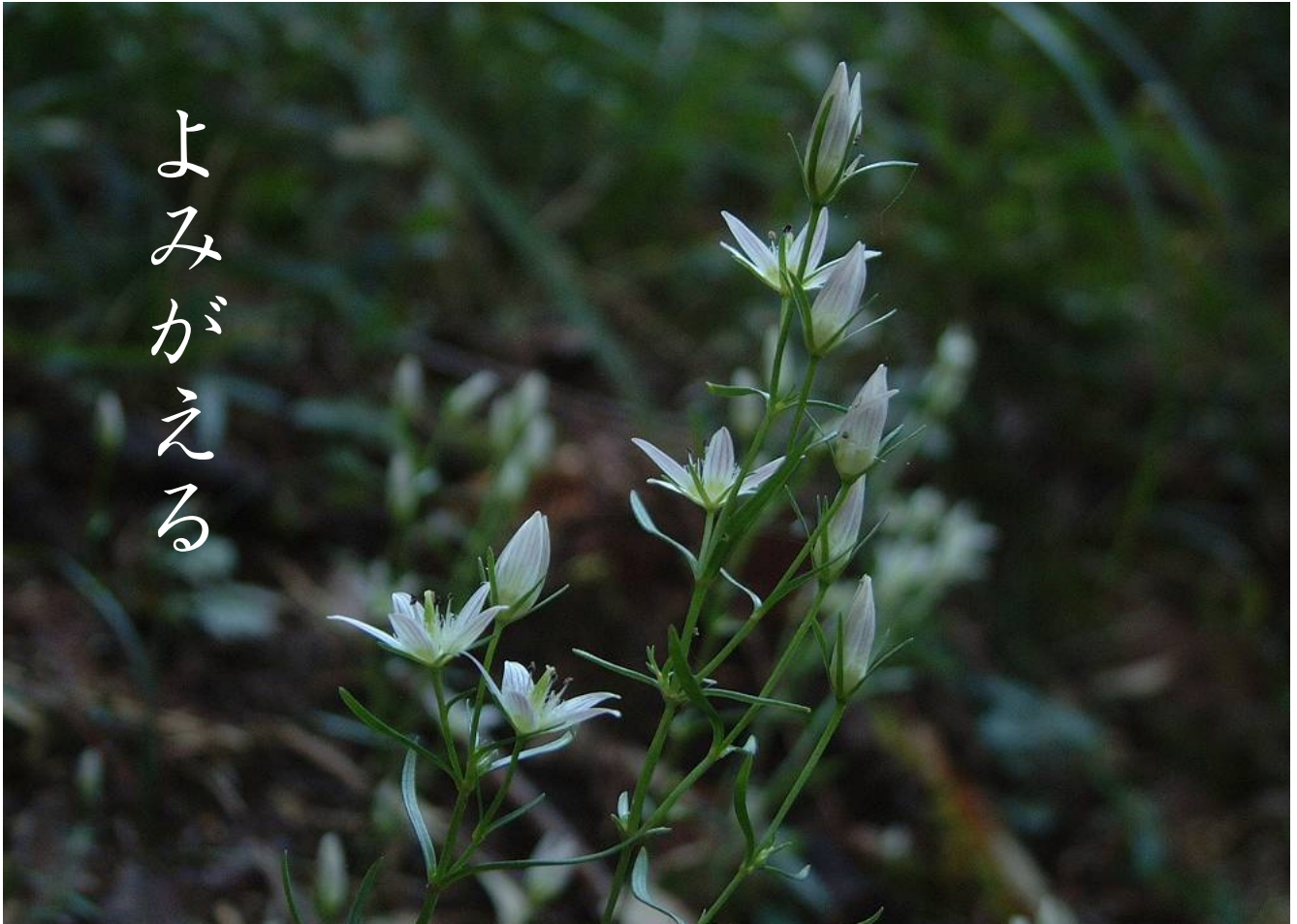


# よみがえる



はなみ  
(センブリ 北区しあわせの村“花実の森”にて2011年11月1日撮影)

『おかえり きれいだよ』。この環境に戻してくれる日を随分待っていたにちがいない。昔は里山ではよく見かけた可憐な花だが、この花も最近は六甲山系でも目にすることがめっきり減ってきた。

人の手が入らなくなった里山では、徐々に常緑樹の勢いが増し、木もれ陽の少ない環境に変わっていく。そこに山肌に繁茂する笹が追い打ちをかければ、地面にはほとんど光は届かない。動植物の多様な生態系は、このような環境では徐々に崩れていく。

そこに再び人手が入り、少しなりともかつての里山の環境に戻してやれば、眠っていた命がよみがえる。北区しあわせの村に繁る雑木林もかつては里山だったところ。

今、“花実の森”と名付け、小学3年生向け『自然環境体験学習』の場としてボランティアで整備を進めているが、昨年あたりからセンブリが咲きはじめた。

永く眠っていた多様な種が、今あらためて命をよみがえらせてきた。

『2011年国際森林年』を締めくくるにふさわしい、素晴らしいプレゼントをもらった気分、あらためて「ありがとう きれいだよ」と感謝する。

さあ この次のプレゼントを期待し、老骨に鞭打ち、楽しみながらの里山整備をつづけていこう。

(ひしのみ 124号 写真と文 菅田 忠志)